令和5年度 学校評価総括表

奈良育英中学校・高等学校

教育目標	1. 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒を育成 2. 自主・自立的な姿勢や態度を研き、高い志を持って学業のみならず、全てのことに全力を尽くす生徒を育成 3. 文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成 4. ユネスコスクールとして、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するとともに、地域と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒を育成 5. 英語教育に力を注ぎ、英語検定合格の実績を出す。また合格により、生徒に「自信」を呼び起こす教育を実践

学校自己評価（4段階評価）　A：達成度が高い　B：概ね達成している　C：課題を残している　D：速やかな改善が必要である

部	評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等
総務部	校務分掌間の連携と学校を取り巻く団体等との関係構築の強化	式典の厳格化と「学校生活のしおり」の充実	・式典における丁寧な実施計画策定と生徒の式典に対する意識付けの徹底 ・「学校生活のしおり」を通しての丁寧な情報配信	B	B	・式典については、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、状況下応じた丁寧な計画策定、実施ができた。 ・「学校生活のしおり」とBLENDを活用して保護者・生徒への丁寧な情報配信が行えた。	・式典については、生徒数の増加に伴い、進行の方法や校外施設の借用など、様々な形を検討していく必要がある。
		校務分掌間の連携強化	・校務分掌間の報告・連絡・相談の徹底と連携強化	B		・総務以外の分掌間の連携強化には殆ど携わることができなかった。	・来年度の分掌編成に伴い、内容を整理し連携強化を計る。
		育英会・同窓会・近隣地域等との連携強化	・学校を支えて頂いている各種団体・組織との連携 ・地域と関わることで、より良い教育環境の構築化促進	B		・育英会・同窓会との連携は推進出来ているが、近隣地域との連携は十分にはできていない。	・災害時に備え、近隣地域との連携を深め、様々な取り組みを検討する。
教務部	本校の教育目標に基づく教育活動の円滑な運営	教育課程の検証	・編成した教育課程の修正や改善についての検証	B	B	・2024年度在校生の教育課程の一部修正ができた。	・次年度は全学年で新学習指導要領の下での授業が実施されるので、教育課程の構成や単位時間数についての検証を引き続きすすめていく。
		授業改善	・主体的・対話的で深い学びの実現及びESDの視点に立った教育に向けての授業改善 ・上記の実現に向けた校内外での研修の推奨及び情報の共有 ・ICTを利活用した授業実践の推進	B		・教員が県の教育委員会や教科研究会等の主催する研修会に積極的に参加しその内容を教科で共有することができた。 ・各教科で創意工夫して教員間で授業改善の取り組みについての情報を共有したり相互に助言しあったりすることができた。 ・ICTを利活用した授業実践の推進のため、新たな学習コンテンツの導入や利用を止めるコンテンツの精査を進めることができた。	・各教員の授業力向上や授業改善に向けて校内研修を引き続き推進していく。
		指導と評価の一体化を目指した評価方法の充実	・学習評価を通じた学習指導の在り方の見直しや個に応じた指導の充実 ・きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着 ・学習指導要領に示す目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価の確実な実施	B		・日々の授業や補習・追試験体制により生徒一人一人への学習指導の充実を図り学習内容を確実に定着させることができた。 ・観点別学習状況の評価をもとにして指導の改善、生徒の学習状況改善へとつなぐことができた。	・学習評価を通じた学習指導の在り方、観点別学習状況評価の基準の修正や改善を引き続き進めていく。
進路指導部	最高・最適な進路保障の実現	キャリア教育の充実	・連携大学との密接な関係を利用した高大接続の実現 ・各コースの状況に応じた進路行事の策定	A	B	・高大連携室との協働で、今年度は「SDGs大学ゼミ」を3回実施する事ができた。これに伴う講義内容や大学説明なども昨年度よりも充実しており、本校生徒及び大学関係者からの反応も非常に良かった。また、高2の学部・学科説明会や高1の大学見学会、中学の体験合宿等滞りなく実施することができた。これにより、生徒が大学を選ぶ際にミスマッチを防ぎ、「やりたいこと」ベースで選ぶ一助となっている。	・引き続き、強化していく。
		保護者との連携強化	・各種説明会（進路ガイダンス・出願説明会等）の充実 ・保護者向け説明会・講演会の充実	B		・生徒向け進路ガイダンスや出願指導説明会については予定通り実施できた。 ・保護者向けについては、中学・高3では予定通り実施できたが、高1・高2では他の行事との兼ね合いで、6月の実施は見送ることになった。また、進路講演会は高1・高2保護者向けに11月に実施した。	・保護者向けについては、より充実したものにすべく、適切な実施時期及び内容について精査する。
		管理体制の強化	・各コースとの連携強化 ・授業内容や朝学習の精査及び模試分析	B		・国際理解Gコースの大学訪問や高大連携Sコース保護者対象連携大学説明会を実施することができたが、全体としては「SDGs大学ゼミ」など学年での進路探究活動が多かった。また、進路指導部として、授業内容等の精査をすることはできなかった。	・年々変化する受験環境に対応すべく、引き続き情報収集に努め、各コースの実情に対応した受験指導ができるよう対策を講じる。
生徒指導部	励ましあい、競い合い、高め合う心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援	生徒の自己実現に向けた自己指導能力の育成と安心安全な学校生活への支援を充実	・基本的な生活習慣・自己規律の確立とモラル・規範意識の醸成 ・生徒の実態を把握し、情報共有・共通理解を図り、有効な指導の展開 ・携帯電話、SNSの利用に関する啓発活動の充実 ・保護者や関係諸機関との連携強化	B	B	・公共交通機関の遅延が多く発生していたが、5分程度の遅れが多く、余裕を持った行動で回避できる遅刻もあった。スマートフォンやSNS等について講演会を実施したが、スマートフォン・SNSに関わってのトラブルは無くなっていない。人助けをしたお礼の連絡を頂くことが増えたが、登下校時など校外での様子について苦情を頂くことも多くあった。	・始業ぎりぎりに登校する習慣が身に付いてしまっている生徒を減らすためにも、余裕を持った行動の習慣が身に付くよう、啓発を続けていく。 ・昨今におけるSNS等のトラブルによる被害やそれらに対して負う責任などを理解させることや、社会の一員としての自覚や責任を持って行動できるよう啓発していく。
		いじめのない学校づくり	・いじめ防止基本方針に基づく迅速かつ適切な情報共有の徹底 ・いじめ防止対策委員会を中心とした未然防止・早期発見・早期対応のための組織的な取り組み ・いじめに関する研修の充実	B		・担任・学年を中心に、日々の様子はもちろんのこと、いじめアンケートの回答をもとにいじめ問題対策委員会での協議や面談を行うなど、未然防止・早期発見・早期対応できるよう取り組んできた。	・未然防止・早期発見・早期対応につながるよう、日々の生徒の様子について情報交換を密に行うとともに、生徒が相談しやすい環境づくりをおこなっていく。
		生徒のやる気を喚起し、主体性を育むと共に、生徒が主体となった生徒会活動を展開	・現行の規定・ルールの見直し ・積極的な地域社会との係わりを推進 ・生徒会活動活性化へ向けた体制の構築 ・他校の生徒会活動との協働および情報収集の推進	B		・規定やルールに関して、教職員への周知不足で混乱を招いてしまうことがあった。生徒会活動は生徒会役員が中心となり、生徒主体の活動を目指して取り組んでいるが、生徒の視点に偏るときや、教員との共有不足を感じるときがあったが、積極的に教員へ質問しに動く姿も増えてきている。	・規定やルールについて定期的に情報共有をはかり、共通認識を持って取り組む。 ・積極的な生徒会活動が、真に学校・生徒の為になるよう、教職員から助言を得られる機会を増やしていく。また、再編した生徒会委員会が機能的に活動できているかの検証が必要である。
国際文化部	多様な価値観を受け入れ、理解しようとする心と課題解決に挑む行動力を育む教育活動の実現	グローバル教育事業の推進	・国内外の他校との交流事業の実施 ・教職員・保護者・生徒に向けた講演会や研修の実施 ・多様な文化的背景を持つ子どもたちの受け入れ体制の検討 ・長短期留学・海外研修の充実 ・海外連携校・姉妹校の拡大と交流 ・留学生の受け入れ	A	B	・交流事業について、今年度より夏期語学研修を企画し、豪カーメルカレッジ校との交流を実施できた。参加した生徒からは好評を得た。また台湾の学生と国際協同プレゼン大会に参加し、高い評価を経ることができた。 ・講演会では、国際交流員の方を迎え、各学年で異文化理解・大使館の役割について学ぶ機会を提供した。 ・留学生の受入れは、バックアップを必要とする生徒であったため担当者間で協力した。また、上海からの団体を半日受入れる企画が突発的に舞い込んだが、充実した交流の場を設けることができた。	・国際交流事業ならびに留学生の受入れ業務は、煩雑なうえに長期にわたってフォローが必要となる。チームとして関わっていくことが重要であるため、早急に組織づくりから再考すべきである。
		ESD・ユネスコスクールの実践と修学旅行の提案、ボランティア活動	・ESDのカリキュラムの検討と実践 ・ユネスコスクール・キャンディデート校としての実践 ・修学旅行の行程等の提案 ・社会貢献活動の充実	B		・中1～高3までの6か年の年間計画を作成し、それに沿って探究学習を実施した。また、各学年に探究科の担当教員を設置し、学年全体での目標の共有、進捗の確認をしながら総合探究の授業を進めた。 ・ユネスコスクール加盟に必要な4つの条件をすべて達成した。その他、様々な国際シンポジウムやイベントに参加し、生徒たちが主体的に持続可能な社会の実現に向けて活動した。 ・高校2年時のインドネシア修学旅行について、探究活動と接続した行程を提案することができた。この体験を生かして、各自の進路実現につなげてもらいたい。	・昨年度から、教員の意見をもとに授業内容を一部調整した。その結果、調べ学習で終わらない探究学習に近づけることができたが、これについてはさらに授業内容の調整を行い、深い探究学習を実施できるように改める必要がある。 ・「ユネスコスクールをなぜ目指すのか」について再確認すべきである。教員研修などで、啓発を促したい。 ・社会貢献活動については、不十分であったため、次年度は活発な活動を企画していきたい。
		生徒主体となる文化活動の展開、芸術活動の促進	・文化部の活動実態の把握と活動の場の拡大 ・文化行事（芸術鑑賞）や年中行事等の充実 ・校内における芸術活動の企画と実施	B		・文化部の活動の場として、中庭コンサートやクリスマスコンサートを実施した。実施回数は重ねることができた。 ・文化行事は高校でイタリアオペラ鑑賞、中学で劇場にてミュージカル鑑賞を実施した。事前学習を丁寧に行ったことで、歴史学習や鑑賞のマナーを身に着ける機会にもなった。	・中庭コンサートは近隣の苦情を受けたことで、次年度以降縮小傾向になる。体育館や校舎内でコンサートが実施できるか模索したい。また、生徒会との連携イベントとできないか、再考したい。
		図書館運営・刊行	・図書館のさらなる充実とその教育的利用の実践 ・図書委員会の運営 ・卒業文集（作文集）の編集と発行	B		・図書館からの情報提供として図書だよりの毎月発行ができた。 ・昼休み時間の図書委員会の活動は毎日実施することができた。 ・図書館内の環境整備、校舎の展示物の更新も滞りなく実施することができた。 ・卒業文集の編集と発行は、円滑に進めることができた。	・図書館からの情報提供をデータ配信のみで行ったため、生徒や保護者が配信を見ていない傾向がある。次年度は紙の資料として提供することを検討したい。 ・図書館の利用人数が伸びていないので、早急に改善したい。 ・刊行物については、さらに充実した内容を検討する。
保健安全部	『命の教育』を意識した講演会や研修会の計画・運営	生徒の実態把握と、『心友』作りに繋がるような指導展開	・教育相談および職員研修の充実 ・生徒が主体的に考え取り組むことのできる保健指導の実践や啓発	A	A	・教育相談については、教員間での連携を徹底する事ができた。 ・愛着障害についての研修を実施する事ができた。 ・応急手当についての研修を実施する事ができた。	・教員間での情報共有の徹底していく。 ・新しいテーマの職員研修を検討し実行していきたい。
		環境整備の徹底と美化意識の醸成	・環境美化について生徒が主体的に考え行動できる指導の実践や啓発	B		・清掃に対して責任を持って取く組む生徒は多いが、日常での美化意識については個々に差がある。	・環境美化や身の回りの整理整頓につながるような啓発をおこなう。
		学校安全体制及び学校防犯・防災基盤の確立	・講習会・避難訓練を通して生徒の防災意識を醸成 ・緊急時に正しい判断と行動が取れる生徒の育成	A		・講習会を入れた避難訓練が実施できた。	・講習会の内容を検討していきたい。 ・新しいパターンの避難訓練、防災学習の実施を検討する。 ・時期や社会情勢に沿った安全教育の実施を実現する。
		生徒の主体性を引き出す体育活動の企画を進め、学校生活の活性化	・体育委員会を中心とした体育行事の企画・運営 ・運動部が誇りとやりがいをもって取り組み、活力ある学校生活の推進	A		・予定の変更もあったが、生徒主体の体育行事が実施できた。	・体育行事の内容の検討を行っていく。 ・クラブ生が充実できるような仕組み作りを検討していく。
入試広報部	奈良育英ブランドイメージの向上と安定した入学生の獲得	奈良育英ブランドイメージの向上	・学業・部活動における生徒の活躍を積極的に発信 ・在校生及びその保護者の満足度向上	B	A	・HPやIKUEITEを活用し、校内活動や卒業生の紹介が出来た。 ・在校生満足度約30%向上、保護者満足度30%低下した。（学校評価アンケート結果より）	・校内でのネタが集まる仕組みを構築し、広報に活用する。 ・在校生及び保護者満足度の向上に全教職員で取り組む。
		定員充足率100%	・（高校入試）各コースにおける定員の充足	A		・選抜75名　Gは16名。Sと総合は大幅に増加した。	・継続して各コースの魅力発信に努める。
			・（中学入試）行事参加者、及び受験者実数の対前年増加	A		・行事参加者対前年150%(98→147名)　受験者実数対前年104%(87→90名)となった。	・徹底的な分析とニーズに合った行事の運営を意識し、継続して定員充足を目指す。
		広報活動の促進	・新たな手法での広報活動の推進 ・生徒主体で学校の魅力を発信できる体制作りの推進 ・校内における研修会の実施	B		・ブログやYouTubeを活用した発信を考えていたが、実行できなかった。 ・オープンスクールを在校生参加型に切り替えた。 ・教職員向けの研修は実施できなかった。	・従来の手法にとらわれない広報を検討する。 ・行事の運営にも在校生が携われるようなスタイルに変更していく。 ・全教職員に対して、研修を実施。特に各分掌長については個別相談ブースも対応できるようにしていく。

学校自己評価（4段階評価）　A：達成度が高い　B：概ね達成している　C：課題を残している　D：速やかな改善が必要である